



広島AIプロセスの経緯と概要

2024年 8月

【経緯】

2022年11月30 日
Open AI社 ChatGPT 3.5 プロトタイプ リリース

2023年3月15日
Chat GPT 4 リリース

2023年4月10日
サム・アルトマンCEO 岸田総理を訪問

2023年4月29～30日
G7デジタル・技術大臣会合 （群馬・高崎）

2023年5月19～21日
G7広島サミット



【広島サミット首脳コミュニケ（抜粋）】

生成AIの機会と課題を早急に把握する必要性を認識し、OECDやGPAIにおける取組を奨励。関係閣僚に対して、生成AIに関する議論のために、包摂的な方法で、OECDやGPAIと協力しつつ、G7作業部会を通じた、広島AIプロセスを年内に創設するよう指示。この議論には、ガバナンス、知的財産権保護、透明性促進、偽情報への対策及びこれらの技術の責任ある活用といったテーマを含み得る。

名称 G 7 群馬高崎デジタル・技術大臣会合

開催日程、場所 令和5年4月29日（土）、30日（日）
群馬県高崎市

G 7 デジタル・技術大臣会合 主な成果

以下、6つのテーマについて議論が行われ、成果として、

「G 7 デジタル・技術閣僚宣言」を採択。

- (1) 越境データ流通と信頼性のある自由なデータ流通(DFFT)の推進
- (2) 安全で強靱性のあるデジタルインフラ
- (3) 自由でオープンなインターネットの維持・推進
- (4) 経済社会のイノベーションと新興技術の推進
- (5) 責任あるAIとAIガバナンスの推進**
- (6) デジタル競争

参加国等

- 我が国から河野デジタル大臣、松本総務大臣、西村経済産業大臣が共同議長として参加。
- G7各国（仏、米、英、独、伊、加）、EUに加え、招待国（印、インドネシア、ウクライナ）、国際機関（OECD、ITU、世銀、国連、ERIA）が参加。



ファミリーフォト

責任あるAI とAI ガバナンスの推進

- G7は、民主主義の価値に基づく、信頼できるAIという共通ビジョンを推進するため、国や地域により異なるAIガバナンスの相互運用性を促進することの重要性を認識。
- 「AIガバナンスのグローバルな相互運用性を促進等するためのアクションプラン」を承認
- 生成AI技術による機会と課題を早急に把握し、技術の発展に際して、安全性と信頼性を促進する必要性を認識。
- 生成AIの急速な伸張の中で、OECDやGPAIなどの国際機関等も活用したAIガバナンス、知的財産権保護、透明性確保、偽情報への対策とともに、責任ある形での生成AIを活用する可能性についてのG7における議論の場を設置。

【AIガバナンスのグローバルな相互運用性を促進等するためのアクションプラン】

- ◆ 信頼出来るAIのための相互運用可能なツールの役割を支持し、責任あるAIイノベーションのためのオープンで実現可能な環境を構築する役割を認識
- ◆ 国際標準化機関による国際標準開発への多様なステークホルダーの参加を支持
- ◆ 信頼できるAI のためのツールに関するG7 ワークショップやラウンドテーブルを通じた対話の促進
- ◆ OECD、GPAI、UNESCO等を含む国際機関やイニシアティブとの協力を歓迎。
G7やOECD等における生成AIを含むAIに関する今後の機会や課題に関する将来の政策や社会のニーズについて、関連する全てのステークホルダーとの協力を強化
- ◆ 発展途上国や新興国との関与を強化し、世界的にAIイノベーションを実現可能とする環境を支援するとともに、世界中のAIガバナンスの枠組み間の相互運用性を促進するための努力を歓迎

1. 日程

令和5年5月19日～21日

2. 参加国

- ・G7メンバー
- ・招待国：豪州、ブラジル、コモロ（AU議長国）、クック諸島（太平洋諸島フォーラム議長国）、インド（G20議長）、インドネシア（ASEAN議長）
韓国、ベトナム
- ・招待国際機関：国連、世界エネルギー機関（IEA）、国際通貨基金（IMF）、経済協力開発機構（OECD）、世界銀行、世界保健機関（WHO）、世界貿易機関（WTO）

（※一部セッションにゼレンスキー・ウクライナ大統領が参加）

3. 成果文書

G7広島首脳宣言（コミュニケ）

（個別声明）

- ・ウクライナに関するG7首脳声明
- ・「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」
- ・経済的強靱性及び経済安全保障に関するG7首脳声明
- ・G7クリーン・エネルギー経済行動計画
- ・強靱なグローバル食料安全保障に関する広島行動声明



[平和記念公園のG7首脳]

- AIガバナンス及びAIガバナンスの枠組み間の相互運用性に関する国際的な議論の重要性を強調。デジタル・技術大臣会合で承認された「AIガバナンスの相互運用性を促進等するためのアクションプラン」を歓迎。
- 生成AIの機会と課題を早急に把握する必要性を認識し、OECDやGPAIにおける取組を奨励。関係閣僚に対して、生成AIに関する議論のために、包摂的な(inclusive)方法で、OECDやGPAIと協力しつつ、G7作業部会を通じた、広島AIプロセスを年内に創設するよう指示。この議論には、ガバナンス、知的財産権保護、透明性促進、偽情報への対策及びこれらの技術の責任ある活用といったテーマを含み得る。



広島AIプロセスの立ち上げとして、
5月30日に実務者レベルによる第1回G7作業部会を開催
担当閣僚間での議論も行って、その結果を年内にG7首脳に報告予定

広島AIプロセスのこれまでの経緯

- 2023年5月のG7広島サミットの結果を受けて、**生成AIに関する国際的なルールの検討を行うため、「広島AIプロセス」**を立ち上げ。
- 10月30日に「**広島AIプロセスに関するG7首脳声明**」が発出され、**高度なAIシステムを開発する組織向けの広島プロセス国際指針及び国際行動規範**を公表。
- 12月1日にG7日本議長国下での取組の成果として、「**広島AIプロセス包括的政策枠組**」及び「**広島AIプロセスを前進させるための作業計画**」をとりまとめ。12月6日に発出されたG7首脳声明で**これらの成果をG7首脳が承認**。
- 2024年3月にG7イタリア議長国下で採択された「**G7産業・技術・デジタル閣僚宣言**」においても**広島AIプロセスの成果の前進にG7が継続的にコミット**することを確認。
- 5月のOECD閣僚理事会において、49の国・地域の参加を得て、広島AIプロセスの精神に賛同する国々の自発的な枠組みである「**広島AIプロセス フレンズグループ**」を立ち上げ。

日本議長国（2023年）

イタリア議長国（2024年）

G7デジタル閣僚級会合

閣僚声明とりまとめ

G7首脳声明

高度なAIシステムを開発する組織向けの広島プロセス国際指針及び国際行動規範の公表

G7首脳声明

12月の閣僚級会合の成果を承認

国際行動規範の実践

G7産業・技術・デジタル大臣会合

5月

9月

10月

12月

3月

5月



G7広島サミット

広島AIプロセス立ち上げを指示



マルチステークホルダー ハイレベル会合（IGF）

広島AIプロセスの議論を共有

G7デジタル閣僚級会合

国際指針、国際行動規範、プロジェクトベース協力等を含む包括的政策枠組及び今後の作業計画をとりまとめ



OECD閣僚理事会

広島AIプロセスフレンズグループの立ち上げ

賛同国の拡大

AI特別セッションの概要①

グローバルAIガバナンスと生成AI - 広島AIプロセスへの貢献 -

○日時・場所：2023年10月9日（月）11:05-13:00・京都国際会館

○構成：

(1) 基調講演：岸田文雄 内閣総理大臣、マリア・レッサ ジャーナリスト、クヌッセン OECD事務次長

(2) パネルディスカッション：鈴木淳司 総務大臣、ネザル インドネシア通信情報副大臣、
 アンドラージ ブラジル外務省科学技術知財局長、ウォン シンガポール情報通信メディア開発庁長官補、
 ケント・ウォーカー Google, President of Global Affairs、ニック・クレグ Meta, President, Global Affairs、
 ビント・サーフ IGFリーダーシップパネル議長、村井純 慶応義塾大学 教授、
 ボグダン ITU事務総局長、モデレーター：江間有沙 東京大学 准教授

○結果：広島AIプロセスにおいて検討を進めている「AI開発者向けの国際的な指針及び行動規範」について議論を行い、**G7外のパートナーであるインドネシア、ブラジル、シンガポールやグローバルAI開発企業であるGoogleやMeta等が、広島AIプロセスへの賛同・期待を表明。**本セッションは、広島AIプロセスにおいて**マルチステークホルダーの意見を聞く初めての取り組み**であり、今後、**グローバルサウス等へのアウトリーチを進める上での重要な第一歩**となった。

岸田総理及び鈴木総務大臣の発言概要



「生成AIが経済社会に与える**リスクを軽減**しつつ、人類に対する**恩恵を最大化**していくために、人類の英知を結集することが重要。このような考えの下、「**広島AIプロセス**」の創設を提案し、**G7間で合意**。IGFの機会を活用し、**マルチステークホルダーの幅広い意見**を取り入れていく。国際社会全体が、生成AIの恩恵を享受し、更なる**経済成長**や**生活環境の改善**を実現できるような**国際的なルール作り**を牽引していく。」

「世界中のステークホルダーが集うIGFの場で議論できたことは有益。AIガバナンスについて議論する際には、様々な関係者の意見を伺うことが重要であり、今後ともこのような取組を続ける。」



パネルディスカッションの主なポイント

- ① 生成AIの課題と機会について国際的な議論を行う「広島AIプロセス」への賛同・期待が表明された。また、今後、広島AIプロセスをより包摂的なものとするため、**G7以外の国や民間企業をはじめとする様々なステークホルダーの関与を高めていくべき**との意見があった。
- ② **AIが先進国と途上国との間のデジタル・デバイドを拡大するリスクについても着目**すべきであり、大規模言語モデルが非常に少数の国の少数の企業により開発されている現状も踏まえ、**デジタルインクルージョンという概念を中心に据えて、グローバルサウスを始めとする世界中の市民に対してAIを民主化する方策を考えるべき**との意見があった。この課題について、オープンイノベーション、オープンソースの大規模言語モデルの開発及び提供が、有効な手段になり得るとの意見があった。
また、**有意義 (meaningful) で普遍的 (universal) な接続性を確保する**という基本的な視点を失ってはならず、その基盤としての**デジタルインフラやデジタルスキルの整備を国際社会として図る必要**があるとの意見があった。
- ③ AIが国際社会に対してもたらす機会は非常に大きく、**科学の方法や技術開発の手法を変えるとともに、農業、気象予測、医療・ヘルスケア、公衆衛生、教育等、様々な分野における新たな課題解決の可能性を提示するもの**であり、**AIがもたらす機会とリスクのバランスをとりながらイノベーションを促進すべき**との意見があった。
広島AIプロセスを通じて策定しようとしている「AI開発企業に対する国際的な指針及び行動指針」について、**責任の明確化、セキュリティとオープン性のトレードオフ、透明性の促進等**の観点から必要な措置を盛り込むべきとの考えの下、各パネリストから提案・コメントがあった。



鈴木 総務大臣、サーフIGFリーダーシップパネル議長、村井 慶応義塾大学教授、ボクダンITU事務総局長(左から)



江間 東京大学准教授、クック Meta President, Global Affairs、アントラーズ ブラジル外務省科学技術知財局長、ウォン シンガポール情報通信メディア開発庁長官補、ネザリントネシア通信情報副大臣、ウォーカー Google, President of Global Affairs(左から)

- 令和5年12月1日（金）、総務省、経産省及びデジタル庁共同で「G7デジタル・技術大臣会合」を開催。G7構成国・地域のほか、関係国際機関が参加。
- 広島AIプロセス（議長：鈴木総務大臣）及びDFFT（議長：河野デジタル大臣）について議論を行い、成果文書として、「広島AIプロセス G7デジタル・技術閣僚声明」及び「DFFT の具体化に関する閣僚声明」が採択。

広島AIプロセス G7デジタル・技術閣僚声明における主な成果① - 広島AIプロセス包括的政策枠組み

- ◆ 生成AI等の高度なAIシステムへの対処を目的とした初の国際的枠組みとして「**広島AIプロセス包括的政策枠組み**」に合意。

1. 生成AIに関するG7の共通理解に向けたOECDレポート

- 優先的な課題・リスクとして、透明性、偽情報、知的財産権、プライバシーと個人情報保護、公正性、セキュリティと安全性等を例示。機会として、生産性・イノベーション促進、ヘルスケア改善、気候危機解決への貢献等。

2. 全てのAI関係者向け**広島プロセス国際指針**

- 「AI開発者向けの国際指針」（2023年10月30日公表）の11項目が高度なAIシステムの設計、開発、導入、提供及び利用に関わる全ての関係者に適宜適用し得ることを確認。
 - ・ 偽情報の拡散等のAI固有のリスクに関するデジタルリテラシーの向上、脆弱性の検知への協力と情報共有等、利用者に関わる内容を12番目の項目として追加。

3. 高度なAIシステムを開発する組織向けの**広島プロセス国際行動規範**

- 10月30日に公表した国際行動規範を支持する声明を发出している組織をG7として歓迎。
- 幅広い支持を得るために、より多くの組織への働きかけを継続することを確認。

4. 偽情報対策に資する研究の促進等の**プロジェクトベースの協力**

- OECD, GPAI及びUNESCO等が実施する「生成AI時代の信頼に関するグローバルチャレンジ」の取組を歓迎。
- GPAI東京センターを含め生成AIに関するGPAIプロジェクトを歓迎。（コンテンツ認証・来歴管理メカニズム等）

広島AIプロセス G7デジタル・技術閣僚声明における主な成果② - 広島AIプロセス推進作業計画

- ◆ G7として、以下の項目の「**広島AIプロセスを前進させるための作業計画**」についても合意。
 1. 広島プロセス国際指針及び行動規範への**賛同国増加に向けたアウトリーチ**
 2. 企業等による**国際行動規範への支持拡大**及び**企業等による国際行動規範履行確保のためのモニタリングツール**の導入に向けた取組の実施
 3. グローバル・チャレンジやその他の潜在的な機会を通じた、**OECD、GPAI、UNESCOとのプロジェクトベースの協力の継続**

これらの他、以下の取組を推進。

- 関連国の政策動向及び国際行動規範にコミットする組織のリストに関する最新情報等を提供する**広島AIプロセス専用ウェブサイトの立ち上げ**
- マルチステークホルダーコミュニティとの対話促進を通じた、広島AIプロセスの成果の推進
- **OECDに対して既存のAIの取組みにおいて広島AIプロセスの成果を考慮するよう奨励**
- **OECD、GPAI及び国連等の多国間の場**における協調と協力の強化による**広島AIプロセスの更なる前進**

- The G7 emphasizes **the responsibilities of all AI actors in promoting**, as relevant and appropriate, **safe, secure and trustworthy AI**.
- The G7 encourages all AI actors to read and understand the “Hiroshima Process International Guiding Principles for Organizations Developing Advanced AI Systems (October 30, 2023)” **with due consideration to their capacity and their role within the lifecycle**.

1. Take appropriate measures throughout the development of advanced AI systems, including **prior to and throughout their deployment and placement on the market, to identify, evaluate, and mitigate risks across the AI lifecycle**
2. Identify and mitigate vulnerabilities, and, where appropriate, incidents and patterns of misuse, **after deployment including placement on the market**

- 3. Publicly report advanced AI systems' capabilities, limitations and domains of appropriate and inappropriate use**, to support ensuring sufficient transparency, thereby contributing to increase accountability
- 4. Work towards responsible information sharing and reporting of incidents** among organizations developing advanced AI systems including with industry, governments, civil society, and academia
- 5. Develop, implement and disclose AI governance and risk management policies**, grounded in a risk-based approach – including privacy policies, and mitigation measures, in particular for organizations developing advanced AI systems

6. Invest in and implement robust security controls, including **physical security, cybersecurity and insider threat safeguards** across the AI lifecycle
7. Develop and deploy **reliable content authentication and provenance mechanisms, where technically feasible, such as watermarking or other techniques** to enable users to identify AI-generated content
8. Prioritize research to mitigate societal, safety and security risks and **prioritize investment in effective mitigation measures.**

9. Prioritize the development of advanced AI systems to **address the world's greatest challenges**, notably but not limited to the climate crisis, global health and education

10. the development of and, where appropriate, adoption of international technical standards

11. Implement **appropriate data input measures and protections for personal data and intellectual property**

12. Promote and **contribute to trustworthy and responsible use of advanced AI systems**

~ improve their own and, where appropriate, others' **digital literacy, training and awareness**, including on issues such as how advanced AI systems may **exacerbate certain risks** (e.g. with regard to the **spread of disinformation**) and/or **create new ones**.

All relevant AI actors are encouraged to cooperate and **share information, as appropriate, to identify and address emerging risks and vulnerabilities** of advanced AI systems.

Outline of HAIP Code of Conduct for Organizations Developing Advanced AI Systems -1

- Code of Conduct is formulated based on No1 to No11 of Guiding Principles, and presents specific actions and measures for implementation of individual principle items.

1. Take appropriate measures prior to and throughout their deployment and placement on the market
(Examples from CoC) Identification and mitigation of risks through internal and independent external testing, including "red teaming" prior to placement on the market
2. Mitigate vulnerabilities, incidents and patterns of misuse, after deployment including placement on the market.
(Examples from CoC) Facilitating third-party and user discovery and reporting of issues and vulnerabilities after deployment such as through bounty systems or contests
3. Publicly report advanced AI systems' capabilities, limitations and domains of appropriate and inappropriate use
(Examples from CoC) Publishing transparency reports which include, for example, details of the evaluations conducted for potential safety, security, and societal risks, as well as risks to human rights
4. Work towards responsible information sharing and reporting of incidents
(Examples from CoC) Developing, advancing, and adopting, where appropriate, shared standards, tools, mechanisms, and best practices for ensuring the safety, security, and trustworthiness of advanced AI systems
5. Develop, implement and disclose AI governance and risk management policies, and mitigation measures.
(Examples from CoC) Disclosing where appropriate privacy policies, including for personal data, user prompts and advanced AI system outputs

Outline of HAIP Code of Conduct for Organizations Developing Advanced AI Systems -2

6. Invest in and implement robust security controls, including physical/cybersecurity and insider threat safeguards.
(Examples from CoC) Securing *model weights and, algorithms, servers, and datasets*, such as through operational security measures for information security and appropriate cyber/physical access controls
7. Develop and deploy reliable content authentication and provenance mechanisms, such as watermarking or others
(Examples from CoC) Developing tools or APIs to allow users to determine if particular content was created with their advanced AI system, such as via watermarks
8. Prioritize research to mitigate societal, safety and security risks and investment in effective mitigation measures.
(Examples from CoC) Collaborating on and investing in research on upholding democratic values and respecting human rights
9. Prioritize the development of advanced AI systems to address the world's greatest challenges
(Examples from CoC) Supporting progress on the United Nations Sustainable Development Goals, and to encourage AI development for global benefit
10. Advance the development of and, where appropriate, adoption of international technical standards
(Examples from CoC) Contributing to the development and, where appropriate, use of international technical standards and best practices, including for watermarking
11. Implement appropriate data input measures and protections for personal data and intellectual property
(Examples from CoC) Implementing appropriate safeguards, to respect rights related to privacy and intellectual property, including copyright-protected content

- 10月30日、広島AIプロセスに関するG7首脳声明を発出し、高度なAIシステムを開発する組織向けの広島プロセス国際行動規範について歓迎し、公表。

1. 高度なAIシステムの**開発・市場投入前**及び、高度なAIシステムの開発を通じて、AIライフサイクルにわたる**リスクを特定、評価し、低減するための適切な対策を実施する**

(行動規範例) 市場投入前の「レッドチーミング」などの内部および独立外部テストによるリスクの特定と低減

リスク例：化学・生物兵器の開発等に係るハードルを下げるリスク、有害な偏見や差別を社会等にもたらすリスク、偽情報助長やプライバシー侵害など民主主義的価値や人権に対するリスク

2. **開発・市場投入後に脆弱性、インシデント、悪用パターンを特定し、低減する**

(行動規範例) コンテストや賞金などを活用した、第三者および利用者による問題や脆弱性の発見と報告の促進

3. 十分な透明性の確保や説明責任の向上のため、高度なAIシステムの能力、限界、適切・不適切な利用領域を公表する

(行動規範例) 安全性・セキュリティ・社会や人権に対するリスクに関する評価、AIモデルの能力や限界等を含んだ透明性報告書や使用説明書の公表

4. 産業界、政府、市民社会、学术界を含む関係組織間で、責任ある情報共有とインシデント報告に努める

(行動規範例) 安全性・セキュリティ・信頼性を確保するため、情報共有のための基準・メカニズム・ベストプラクティスを開発し採用

5. リスクベースのアプローチに基づいたAIのガバナンスとリスク管理ポリシーを開発、実践、開示する。

特に高度AIシステムの開発者向けの、プライバシーポリシーやリスクの低減手法を含む。

(行動規範例) 個人データ、ユーザーのプロンプトや出力を含めたプライバシーポリシーの開示
職員が自らの責務や組織のリスク管理慣行を熟知するための方針・手順・訓練の確立

6. AIのライフサイクル全体にわたり、物理的セキュリティ、サイバーセキュリティ及び内部脅威対策を含む**強固なセキュリティ管理措置**に投資し、実施する

(行動規範例) 情報セキュリティに関する安全運用措置等による「モデルウェイト」やアルゴリズムの保護

最も貴重な知的財産や企業秘密を保護するための強固な内部脅威検知プログラムの確立

7. AIが生成したコンテンツを利用者が識別できるように、電子透かしやその他の技術等、信頼性の高い**コンテンツ認証および証明メカニズム**を開発する。またその導入が奨励される。

(行動規範例) 電子透かしや証明システムなど、AI生成コンテンツであることを利用者が判断できるためのツールやAPIの開発

AIと接していることを利用者が認知できるようなラベリング表示メカニズムの導入

8. 社会、安全、セキュリティ上の**リスクの低減のための研究を優先**し、効果的な低減手法に優先的に投資する

(行動規範例) 民主的価値の確保や人権の尊重等に関する研究の実施、協力や投資

環境及び気候への影響を含むリスク低減ツールや積極的リスク管理作業への投資

9. 気候危機、健康・教育などの、**世界最大の課題に対処**するため、高度なAIシステムの開発を優先する

(行動規範例) 国連SDGsの進捗を支援するためのAI開発を支援

10. **国際的な技術標準**の開発と採用を推進する

(行動規範例) 電子透かしを含む国際的な技術標準とベストプラクティスの開発や利用に貢献

11. **適切なデータ入力措置と個人情報及び知的財産の保護**を実施する

(行動規範例) プライバシーや知的財産を尊重するための安全措置の実施
適用される法的枠組みの順守

我々は、信頼できる人工知能（AI）という共通のビジョンと目標を達成するためのアプローチと政策手段が、G7メンバー間で異なり得ることを認識しつつも、我々が共有する民主的価値に沿った、安全、安心で、信頼できるAIという共通のビジョンと目標を達成するために、包摂的なAIガバナンス及びAIガバナンス枠組間の相互運用性に関する国際的な議論を進めることへのコミットメントを新たにする。我々は、広島AIプロセス包括的政策枠組及び広島AIプロセスを前進させるための作業計画を始めとする2023年12月1日のG7デジタル・技術大臣会合の成果を承認する。我々は、広島AIプロセス包括的政策枠組を歓迎する。同枠組は、高度なAIシステムが我々の社会や経済に与える影響に対処するための、指針及び行動規範を含む、初の成功した国際的枠組である。我々は、AI関係者に対して、広島プロセス国際指針及び広島プロセス国際行動規範を支持することを求める。G7日本議長下における広島AIプロセスの成果は、責任あるイノベーション及び新興技術のガバナンスを主導するために、我々が迅速に行動することができることを示すものである。我々は、関連閣僚によって策定された作業計画に沿って、広島AIプロセスを更に前進させることを期待する。

我々は、英国が主催したAI安全性サミットを歓迎し、韓国及びフランスが主催する次回のAIに関する国際会議に期待している。我々は、我々のOECD及び人工知能グローバルパートナーシップ（GPAI）との緊密な協力の重要性を再確認する。

- 令和6年3月14日（木）及び15日（金）イタリアで「G7産業・技術・デジタル大臣会合」が開催。G7構成国・地域のほか、関係国際機関が参加。日本からは、総務省、経産省及びデジタル庁が参加。
- 成果文書として、「G7産業・技術・デジタル閣僚宣言」及び付属文書が採択。

広島AIプロセスの成果の前進（パラ52、53、付属文書3）

- G7が、**主要なパートナー国や企業等からの認知及び支持の拡大**等を通じて、**今後も広島AIプロセスの成果を前進させることに継続的にコミットすることを確認**。
- デジタル・デバイドを解消し、デジタル・インクルージョンを達成する観点から、開発途上国や新興国を含む世界中の全ての人々の利益のために、そのリスクを軽減しつつ、**技術の便益を最大化**するために、国際指針及び国際行動規範を含む**広島プロセス包括的政策枠組みへのコミットメントを改めて表明**。
- 昨年のG7議長国である日本のリーダーシップの下で得られた成果を基礎として、G7として、**昨年合意した作業計画を前進させるために、以下の主要なアクション、特に、開発途上国・新興経済国を含む主要なパートナー国や組織における国際指針・国際行動規範の普及、採択、適用を促進するためのアクションを歓迎**。
 1. 広島プロセス国際指針及び国際行動規範の**普及を促進し、主要なパートナー国や企業等の関与を拡大**
 2. 高度なAIシステムの開発における説明責任を促進等するため、**国際行動規範に自主的にコミットする組織による当該規範の履行状況をモニタリングするための適切なツール及びメカニズムを特定・開発・導入**
 3. グローバル・チャレンジ等の機会を通じて、**OECD、GPAI、UNESCOとプロジェクトベースの協力を継続し、偽情報や透明性の確保等、高度AIシステムに関連する課題への対策や実践を模索**

- Advancing the Outcomes of the Hiroshima Artificial Intelligence Process-

- ◆ We remain committed to advancing the Hiroshima AI Process outcomes, including through **expanding support and awareness among key partners and organisations**, as well as increasing their involvement, as appropriate.
- ◆ Based on the Framework we look forward to continuing our work, including the **development of mechanisms to monitor the application of the Code of Conduct by organisations** that will commit to these outcomes on a voluntary basis, with the support of the OECD and informed by other stakeholders, organisations, and initiatives as relevant, such as UNESCO and the Global Partnership on AI (GPAI),
- ◆ We welcome the awareness raising event that took place on 22 January 2024 and **look forward to other opportunities for engagement with key partner countries**, including from developing countries and emerging economies, and organisations.

G7 Summit Leaders' Communique (Extract) (June 13-15, 2024@ Apulia, Italy)

- ◆ Recognizing the importance of advancing the Hiroshima AI Process outcomes, we welcome **support from the countries and organizations beyond the G7, as demonstrated by its Friends Group.**
- ◆ We will step up our efforts to **enhance interoperability amongst our AI governance approaches** to promote greater certainty, transparency and accountability while recognizing that approaches and policy instruments may vary across G7 members.
- ◆ We are also committed to deepening coordination between our respective institutes and offices focused on AI, to **work towards shared understanding of risk management and advance international standards** for AI development and deployment.
- ◆ We welcome our Industry, Tech, and Digital Ministers' efforts to advance the Hiroshima AI Process outcomes released last year, including **the development of a reporting framework for monitoring the International Code of Conduct for Organizations Developing Advanced AI Systems.** We look forward to **the pilot of the reporting framework**, developed in cooperation with the OECD,
- ◆ We will work towards **developing a brand that can be used to identify organizations** that are voluntarily participating in and implementing the Code's forthcoming reporting framework.



2024年OECD閣僚理事会(MCM) 結果概要 1

■ 広島AIプロセスの成果を踏まえた**AI原則改定版及び閣僚声明が採択**。フレンズグループに**49か国・地域**が参加。

・日程等：2024年5月2日（木）～5月3日（金）（対面（フランス/パリ））

・参加者：岸田総理大臣、松本総務大臣、新藤経済財政担当大臣、河野デジタル大臣、上川外務大臣、齋藤経済産業大臣、ほか

1. 生成AIに関するサイドイベント

● 広島AIプロセスの概要を紹介する動画を投影した上で、岸田総理からのキーノートスピーチにおいて（1）**広島AIプロセスの成果を踏まえOECD AI原則の改定という具体的成果が生まれることを歓迎**し、（2）**49か国・地域の参加を得て「広島AIプロセス フレンズグループ」を立ち上げ**、国際指針等の実践に取り組み、世界中の人々が安全、安心で、信頼できるAIを利用できるよう協力を進めていく旨及び（3）日本が**GPAI東京センターを新設して専門家による技術実証等のプロジェクトを支援**するとともに、生成AIがもたらす偽情報等のリスクに対応するため、発信者情報を確認するための技術の社会実装に向けた取組も支援していく旨を発信。

● これを受けて、コマンOECD事務総長、メキシコのエンシナス経済省通商担当次官、シンガポールのフー持続可能性・環境・貿易担当大臣及びOPEN AIのアルトマンCEOから、**広島AIプロセスを主導する日本の取組を評価**するとともに、**フレンズグループへの期待が表明**。



<広島AIプロセス フレンズグループ>

➤ **安全、安心で信頼できるAIの実現に向け、広島AIプロセスの精神に賛同する国々の自発的な枠組み。**

➤ **49か国・地域が参加（5月2日時点）**

（G7メンバー）カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、英国、米国、EU

（その他）アルゼンチン、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ブルガリア、チリ、コロンビア、コスタリカ、クロアチア、キプロス、チェコ、デンマーク、エストニア、フィンランド、ギリシャ、ハンガリー、アイスランド、インド、アイルランド、韓国、ラオス、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、マルタ、メキシコ、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、セルビア、シンガポール、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデン、タイ、トルコ、アラブ首長国連邦



（左から）岸田総理、コマン事務総長、エンシナス メキシコ経済省次官、フー シンガポール持続可能性・環境・貿易担当大臣、アルトマンOPEN AI CEO

2024年OECD閣僚理事会(MCM) 結果概要 2

- 広島AIプロセスの成果を踏まえた**AI原則改定版及び閣僚声明が採択**。フレンズグループに**49か国・地域**が参加。
- 参加者：岸田総理大臣、松本総務大臣、新藤経済財政担当大臣、河野デジタル大臣、上川外務大臣、齋藤経済産業大臣ほか

2. 議題6「新興課題に対する解決志向型アプローチ」AIパート (R6.5.3)

松本大臣から、

- **OECD AI原則の見直しにおいて「広島AIプロセス」の議論を反映する方向であること、OECDが関係機関と協力して「生成AI時代の信頼に関するグローバル・チャレンジ」に、またOECD自らが利用する生成AIを広島プロセス国際行動規範に沿って開発・実装に**取り組んでいることを歓迎**する旨発言。**
- **更に、NICTの大規模言語モデル(LLM)の開発力強化の取組や、関連するノウハウの提供及び人材開発等の国際的な支援を進めていく予定であることを紹介。**
- 各国からは、OECD AI原則の改定や広島AIプロセスの取組を評価する発言のほか、国際的なAI政策におけるGPAIの役割、AIガバナンスの国際的な相互運用性の確保の重要性を指摘する発言などがあった。



OECD閣僚理事会 会合の様子

Member countries of the Hiroshima AI Process Friends Group (As of June 30)

53 countries and region have joined the Hiroshima AI Process Friends Group, a voluntary framework of countries supporting the spirit of the Hiroshima AI Process, to achieve safe, secure, and trustworthy AI.

(G7)

Canada	France	Germany	Italy	Japan
United Kingdom	United States	European Union		

(EU member countries)

Austria	Belgium	Bulgaria	Croatia	Cyprus
Czech Republic	Denmark	Estonia	Finland	Greece
Hungary	Ireland	Latvia	Lithuania	Luxembourg
Malta	Netherlands	Poland	Portugal	Romania
Slovakia	Slovenia	Spain	Sweden	

(Others)

Argentina	Australia	Brunei	Chile	Colombia
Costa Rica	Iceland	India	Israel	Kenya
Republic of Korea	Laos	Mexico	New Zealand	Nigeria
Norway	Serbia	Singapore	Thailand	Türkiye
United Arab Emirates				